



2017(平成29)年10月25日発行

発行/大阪大学医学部附属病院広報委員会(総務課) 住所/〒565-0871大阪府吹田市山田丘2-15 TEL/06-6879-5021

http://www.hosp.med.osaka-u.ac.jp

禁転載(この紙面は再生紙を使っています)

大規模災害に備える!

南海トラフ巨大地震を想定した大規模な医療活動訓練に参加



全国から参集したDMAT隊とのミーティング

南海トラフ巨大地震を想定した国の大規模地震時医療活動に関する総合的な実働訓練が、7月29日に行われました。大阪府及び近畿地方の災害拠点病院や全国の災害派遣医療チーム(DMAT)、国や大阪府、消防機関、自衛隊など延べ1800人が参加し、被災者を想定した様々な訓練が実施されました。本院からもDMAT隊員28名(医師、看護師、技術職員、事務職員)が参加し、地域のDMAT活動拠点本部として全国から参集したDMATの指揮及び調整訓練や、災害拠点病院として傷病者受入体制及びDMAT受援体制の構築訓練、また、ドクターヘリの災害時の運用調整訓練等を行いました。



本院には、豊能・三島医療圏(吹田市、豊中市、茨木市、高槻市等のいわゆる府内北摂地域)のDMAT活動拠点本部が設置され、その運営を本院のDMAT隊員が中心となって行いました。この訓練では主に、医療圏内の病院等の被災情報の収集、全国から被災地支援のために参集したDMAT隊の医療圏内への派遣調整、医療圏内外の傷病者搬送の管理と実施、医療圏内の災害拠点病院との連携等の訓練を実施しました。南海トラフ巨大地震の被害想定としては、府の中では本地域が比較的軽微であるため、地域内の病院の被災情報を収集し、より重大な被害が想定される大阪市内等より患者さんを受け入れ、適切に地域の医療資源を活用することを目的として訓練を実施しました。

本院はまた、大阪府の災害拠点病院でもあります。災害拠点病院とは、災害時の医療の中心を担う病院のことであり、豊能・三島医療圏内には本院を含め3つの病院が指定されています。災害時に本院に設置される阪大病院災害対策本部では地域の災害拠点病院としての役割を確認する訓練を行いました。訓練では、主に、医療圏内外からの患者収容、豊中市保健所、池田保健所及びDMATと連携し、管轄区域豊中市、池田市、箕面市、豊能町、能勢町の病院の被災状況の調査、さらに被災時の緊急ヘリポートとなる阪大吹田キャンパスグラウンド

本院には、豊能・三島医療圏(吹田市、豊中市、茨木市、高槻市等のいわゆる府内北摂地域)のDMAT活動拠点本部が設置され、その運営を本院のDMAT隊員が中心となって行いました。この訓練では主に、医療圏内の病院等の被災情報の収集、全国から被災地支援のために参集したDMAT隊の医療圏内への派遣調整、医療圏内外の傷病者搬送の管理と実施、医療圏内の災害拠点病院との連携等の訓練を実施しました。南海トラフ巨大地震の被害想定としては、府の中では本地域が比較的軽微であるため、地域内の病院の被災情報を収集し、より重大な被害が想定される大阪市内等より患者さんを受け入れ、適切に地域の医療資源を活用することを目的として訓練を実施しました。

越村看護部長おすすめ ヘルシー御膳



お品書き
生姜御飯
鮭の塩焼き
田菜
すまし汁
和え物
デザート

越村看護部長と栄養管理室で考案した「ヘルシー御膳」を6月19日、提供しました。新メニューの「生姜御飯」は、患者さんからの反響が特に大きく大好評でした。「ゼリーがとてきれいな。おいしかった」、「ランチオンマットや(食事と一緒に提供される)カードのあじさいがきれいで心遣いを感じる」など、嬉しいコメントをたくさんいただきました。

病院食アンケート結果

朝食に満足していますか?

満足	29%
やや満足	16%
普通	30%
やや不満	19%
不満	2%
無回答	4%

食89%でした。また、朝食について病棟でご意見をいただいたことをきっかけに、今年度は朝食の満足度についても調査しました。「満足」「やや満足」「普通」合わせて75%と、食事全体の満足度に比べると低い結果でした。その理由として「おかずの種類を増やしてほしい」、「量が少ない」といったご意見があり、今回いただいたご意見をもとに、今年度は朝食メニューの改善を図りたいと考えています。

新中央診療施設長ごあいさつ

●ハートセンター長
さわ よしき
澤 芳樹

このたび、再びハートセンター長を拝命しました心臓血管外科長の澤です。ハートセンターは設立されて10年を経過しておりますが、循環器疾患で苦しむ患者さんをお助けしようと、坂田泰史循環器内科長とともに、スタッフ全員が一丸となって24時間体制で最高レベルの循環器医療を提供し続けております。わが国は高齢化とともに心不全パンデミックを迎えつつあり、治療もますます進化し続け、低侵襲化や最先端医療がますます進みます。今後も患者さんに安心して治療を受け病気を克服していただくために、患者さんの心にも優しいハートフルな診療を届けつつ、スタッフにとっても働きやすい環境を作ることを心かけ、「おもしろい医療」を提供してまいります。

(平成29年10月1日就任)

細川互 形成外科長が アメリカ形成外科学会名誉会員に



細川互形成外科長がこのたび、アメリカ形成外科学会評議会よりアメリカ形成外科学会名誉会員に推挙されました。賞状の授与は大阪市内で行われ、アメリカ形成外科学会理事長Debra J. Johnson氏から賞状が手渡されました=写真。これは、細川形成外科長のこれまでの形成外科医としての学問的業績や、日米両国の形成外科学会の友好協力への尽力等が評価されたものです。アメリカ形成外科学会名誉会員となったのは、日本人としては史上初、全世界で7人目となります。



グラウンドに着陸するドクターヘリ



ドクターヘリにより搬送された患者さんを院内へ

「すいらん」での、ヘリポートの運用等を行いました。この他にも、大阪府内に設置されたドクターヘリ調整部や、八尾空港内に設置されたドクターヘリ本部にも本院からDMAT隊員が参加し、全国から参集したドクターヘリの運用や他機関のヘリとの運用調整の訓練を行いました。南海トラフ巨大地震については、30年以内に発生する確率が70%と言われています。大災害が起こった時、地域の災害医療の拠点として、本院の果たすべき役割は決して小さくありません。今回の訓練を通して、明らかになった課題や対応策を見つめ直し、大阪府やその他関係機関とも連携し、来るべき大災害に対する備えを充実させていきたいと考えています。

IAEA脳神経・腫瘍核医学国際ワークショップを開催しました



本院では、医療分野への国際貢献を推進するため、国際原子力機関(IAEA)と「核医学専門家のための教育プログラム」に関する連携協定を平成28年5月より締結しています。この協定に基づき、6月26日から30日にかけて、IAEA主催の「IAEA脳神経・腫瘍核医学国際ワークショップ」を本学で開催しました。中東やアジアの17カ国・地域から核医学研究者などが参加し、畑澤順核医学診療科長をはじめとする本院の核医学診療科医師たちにより、画像解析ソフトウェアの演習などの教育プログラムが実施され、参加した海外の医療関係者に大変好評でした。本院は今後も核医学分野のアジアにおける拠点として、核医学専門家養成のために尽力してまいります。

タイ保健省と 学術交流協定を締結しました



本院と本学医学系研究科は7月18日、タイ保健省と学術交流協定を締結しました。本協定は、タイ保健省の傘下にあるタイのいくつかの病院から、個別に連携協定締結の依頼があったことをうけて、より有益かつ効率的な交流のあり方について検討した結果、タイ保健省と包括協定を締結することで合意したものです。調印式には野口眞三郎病院長、金田安史医学系研究科長、タイ保健省のTheerapol Topanthanont氏らが出席し、調印式の後はキックオフ・ミーティングを開催し、意見交換を行いました。この協定をきっかけに、タイの病院と、研究や研修などにおける交流を今後ますます拡大していきます。



PHOTO

TOPICS

病院見学会を開催しました 9/26

今年も一般市民の方を対象とした病院見学会を開催しました。手洗いの正しい方法を学ぶ感染制御部の講習から始まり、ドクターヘリや臨床検査部、病理部など、普段は見ることのできない院内の部署を見学。参加者からは「ドクターヘリの内部が見れてよかった」「病理部、臨床検査部など専門的な最新の設備を初めて見せていただいた」などの声があり、好評でした。



秋のミニコンサート 10/13



「ピアノ連弾デュオ fuga(フーガ)」による演奏会を外来棟エントランスホールで開催しました。秋にちなんだ童謡メドレーから、クラシックやディズニーの名曲まで、連弾やソロによる心安らく演奏で、集まった患者さんたちに楽しいひとときを過ごしていただきました。

市民公開フォーラム参加者募集

「免疫チェックポイント阻害剤によるがん治療」

本院では平成18年度から、一般市民の方々を対象に、がん診療における種々のテーマについて「市民公開フォーラム」を行っております。

- ◆日時 平成29年12月2日(土) 午後1時～3時30分
- ◆場所 大阪大学医学部講義棟 A講堂
- ◆申込期限 平成29年11月27日(月)【必着】参加費無料
- ◆定員 240名(申込先着順)※定員になり次第締切

講演内容について

1. がん免疫療法における免疫チェックポイント阻害剤 臨床腫瘍免疫学 和田 尚 特任教授
2. 悪性黒色腫(メラノーマ)の最近の治療革新 皮膚科 種村 篤 講師
3. 肺がんにおける免疫チェックポイント阻害剤治療の現状 呼吸器内科 滝本 宜之 特任助教
4. 消化器がんの治療 先進薬物療法開発学 工藤 敏啓 助教
5. 副作用「くすりのりすく」 薬剤部オンコロジーセンター室長 村地 康 薬剤科主任
6. 質問コーナー

お申し込み方法

FAX、メールまたはハガキに必要な事項(①氏名、②郵便番号、③住所、④電話番号、⑤性別、⑥年齢、⑦参加人数(4名まで可))を明記のうえ、下記までお申し込みください。参加の可否はハガキでお知らせいたします。

※注意※

本院では番号非通知の電話・FAXは受信できませんので、頭に186(番号通知)をつけておかけください。

※車いす利用者など、支援が必要な方はあらかじめお問い合わせください。

FAX▶ 06-6879-5019
 メール▶ ibyou-soumu-kouhyo@office.osaka-u.ac.jp
 ハガキ▶ 〒565-0871 吹田市山田丘2-15
 大阪大学医学部附属病院
 総務課 広報評価係

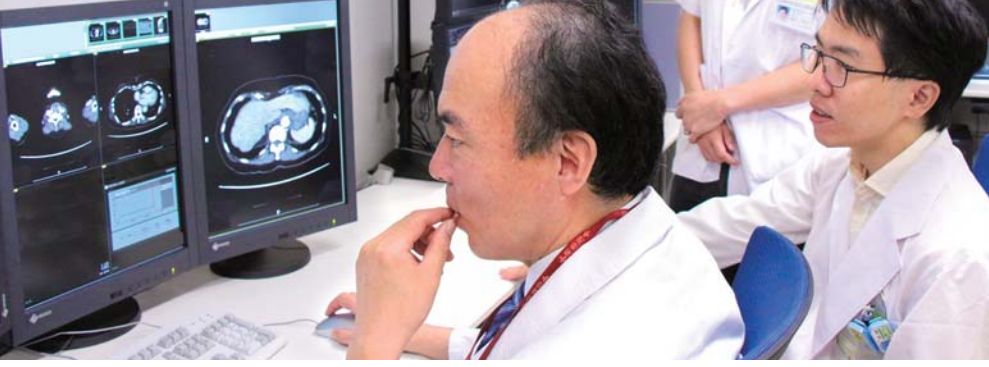
お問い合わせ先 TEL:06-6879-5020・5021

放射線診断・IVR科

当科は、CT、MRIなど様々な画像診断機器で撮影された患者さんの「画像診断読影」と、カテーテルなどを駆使した「IVR(画像下治療・Interventional Radiology)」を主に担当しています。「画像診断」については、各

最適な検査で 正確な診断

高度で安全な医療を支える
ドクターズ・フォー・ドクター



読影室での診断の様子



移植医療部

本院は、心、肺、肝、腎、脾、小腸、心臓同時、脾腎同時、肝腎同時というすべての臓器移植実施の認定を受けており、日本の移植医療の拠点の一つです。心臓同時移植は日本でも唯一の実施施設であり、これまで3例を実施し、すべて成功しています。脳死臓器移植だけでなく、肝臓や腎臓の生体移植も実施しています。

平成16年に移植医療部が設置され、現在は奥村明之進(呼吸器外科)部長を筆頭に、戸田宏二(心臓血管外科)、江口英利

すべての臓器移植を行う国内唯一の施設

ドナーの尊い意思をレシピエントにつないでいくことが使命

本院は、心、肺、肝、腎、脾、小腸、心臓同時、脾腎同時、肝腎同時というすべての臓器移植実施の認定を受けており、日本の移植医療の拠点の一つです。心臓同時移植は日本でも唯一の実施施設であり、これまで3例を実施し、すべて成功しています。脳死臓器移植だけでなく、肝臓や腎臓の生体移植も実施しています。

科管理、術後急性期の集中治療部での全身管理、術後移植された臓器の拒絶反応や感染症の管理、レシピエントの術後術後の精神面での支援など、多数の診療科による病院全体での診療に取り組んでおります。また、レシピエント移植コーディネーター(看護師)がこのような多角的な診療を円滑に行うための調整や支援をしています。

国公立大学附属病院 医療安全セミナーを開催

「平成29年度国公立大学附属病院医療安全セミナー」(文部科学省後援を、7月4日から5日にかけて開催しました。このセミナーは、全国の大学に所属する医療安全の担当者らに最新の知見を紹介するため、平成16年から毎年本学が主催しているもので、今回は医師、看護師、薬剤師、事務職員など、計426名の参加がありました。

今年のプログラムでは、組織ガバナンスのあり方など、どの学習のほか、周術期の患者さんの管理、多剤併用「ポリファーマシー」による問題、せん妄対策といった、高齢化かつ高度化した現代医療によってもたらされる安全課題をチーム医療で解決する方法などについて、最新の実践例を共有しました。また、医療安全のためのレジリエンス・エンジニアリング理論の基礎知識や、その適用例の一つとして、アポロ11号がどのように困難を克服して月面に着陸したか、その詳細について臨場感あふれる動画とともに紹介があり、写真、好評のうちを終了しました。

「IVR」は、CTや超音波、血管造影などで映し出される患部の画像を見ながら、カテーテルや針を使って行う低侵襲の治療です。患者さんにはカテーテルなどを通す小さな穴を開けるだけです。痛みも少なく、患者さんの体への負担も少ないため回復が早いのが特徴で、外科手術が難しい高齢の患者さんへの施術も増加しています。「IVR」は全身の幅広い疾患の治療に適用でき、腎臓がんを針で刺して冷却する凍結療法、肝臓がんを栄養を送り届ける動脈造影がんがんと塞栓療法、子宮筋腫の症状を和らげる子宮動脈塞

栓術、他の方法では治療困難な動脈瘤や出血のカテーテル治療なども行っています。また、若い患者さんが多く、治療法も確立していない難病である「血管奇形」の分野では、全国のトッランナーの本院に日本各地から患者さんが来られます。関連診療科と協力しながら、患者さんのQOLをできる限り上げることが目標に、患者さんやご家族と治療に取り組んでいます。

本院では、最先端の画像診断機器の導入にも力を入れていきます。画像診断機器の進歩は速く、最新技術が次々と開発されます。これらの最新技術をいち早く患者さんに還元できるように、今後最先端の機器の導入を予定しています。また、患者さんの放射線被ばくにも留意し、全放射線検査の被ばく線量データを記録、適正な線量で検査が行われているかを常に監視しています。被ばく線量を患者さんごとに管理し、個々の患者さんのデータもチェックしていきます。被ばく線量を三元管理することで、患者さんごとの本院内における累積線量を計算し、放射線による身体的影響が出ないようにコントロールしています。

富山憲幸診療科長は、当科は、脳神経、胸部、腹部・IVR、乳腺の各グループに分かれて専門性高く診療を行っており、今後最先端の機器の導入を予定しています。また、患者さんの放射線被ばくにも留意し、全放射線検査の被ばく線量データを記録、適正な線量で検査が行われているかを常に監視しています。被ばく線量を患者さんごとに管理し、個々の患者さんのデータもチェックしていきます。被ばく線量を三元管理することで、患者さんごとの本院内における累積線量を計算し、放射線による身体的影響が出ないようにコントロールしています。

高校生 医療体験 プログラム



心臓血管外科では、この夏、医学部を目指す高校生16名を受け入れ、早期医療体験プログラムを実施しました。高校生たちは月曜から金曜までの5日間、早朝から医師と行動を共にして、実際の医療現場を体験し、救命の最前線で「なぜ医師になりたいのか」を考え、「医師になる覚悟」を学びました。

手術見学では特別に許可を得て、心臓移植手術にも立ち会いました。医局では縫合の練習などにも挑戦し、四苦八苦しながらも高校生たちからは笑顔がこぼれました。この他、カンファレンスや外来を見学し、病棟では移植を待つ子どもたちと触れ合いました。患者さんやドナーのご家族の思いも、医師の責任も間近で感じとり、命の重みを真剣に考えるきっかけになったようです。医療に携わる厳しさ、やりがいを体験し、参加した高校生たちにとって、医師を志す気持ちを新たにしました。夏休みとなりました。

